

旅 アト

世界の課題や取り組み事例について調べてみよう。

- 不衛生な水で多くの子供が命を落としています
- 気候変動や環境問題により水不足が深刻化しています
- 子供や女性が水をくむため1日何時間もついやしています

身近な課題や取り組み事例について調べてみよう。

SDGsゴールを自分の言葉で訳してみよう。



Clean Water and Sanitation
Ensure availability and sustainable management of water and sanitation for all

〈参考:外務省訳〉「安全な水とトイレを世界中に」 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

富山市の事例をもとに地域や世界に対して、自分でできることを考えてみよう。

- シャワーの水を1分短縮すると12ℓの水を節約できます
- 世界で水の衛生乗降を改善するために取り組んでいるNGOがあります

※こんな言葉も調べてみよう / パーチャルウォーター 国際NGOウォーターエイド

都市の理想を、富山から。



SDGs 未来都市
TOYAMA

『水の王国』体験プログラム

Sustainable Development Goals



貴重な水資源が自然をどう循環しているのか、地球を覆う、命の源、水について考えます。

富山は豊かな水環境から「水の王国」ともいわれます。氷河を抱く立山の頂から、20mに迫る雪の壁、日本一の落差を誇る称名滝、そしてそれらの水を集め、ダイナミックに平野を駆け抜け富山湾へ注ぐ常願寺川。標高0mの富山の街中から3000m級の立山連峰まで、その壮大な景観と共に、それらを繋ぐ水の物語を辿ってみよう。



◎豊かで安全な水を使い続けられる

課題

世界では、すべての人に十分な水が行き渡っておらず、トイレやお風呂といった水回りの衛生状態も、決して良いとは言えません。



旅 マエ

考えてみよう。調べてみよう。わからないことを書き出してみよう。

- 富山市では蛇口からモンドセレクション最高金賞の水が出ます。なぜだか考えてみよう

年 組 名前

海から山までダイナミックな水循環をたどる



学生のみなさんへ
富山県は名前の通り、山に富んだ自然豊かな地域となっています。今回は水の循環をテーマに立山連峰を目指して富山をめぐる。海と山をつなぐ壮大な水の物語を体感することで、普段の生活になくてはならない「水」について一緒に考えてみましょう。

ツアーストーリー

水は気体(水蒸気)、液体(水)、固体(氷)と形を変えながら、地球上を循環しています。広く考えればわたしたちの体の中の水も、その循環の一過程といえるのかもしれない。

水の惑星といわれる地球で、実際に人や生物がその恩恵を受けることのできる水はとても限られています。97%は海水で、残りの淡水のほとんどは氷河や永久凍土の氷。容易に利用できる湖や河川の水は、全体の0.01%にしかありません。

そんな環境の中にあって、豊かな水が絶え間なく循環する富山は「水の王国」といわれています。日本海に面し、立山連峰がすぐ背後に立ち並ぶという独特な地形が王国を築きあげている理由です。

海などから蒸発した水は雲になり、やがて雨や雪として地上に降り注ぐ。富山に降る水の特徴はシーズンを通して多いことで、その半分は雪としてもたらされます。3000m級の立山の山岳地域は世界で最も雪の多い地域のひとつとなり、容易に訪れることができるという点では世界唯一の場所です。そして、ひと冬かけて降り積もった雪は、天然の雪のダムがごとく、春から夏の長い期間に渡り、清らかな雪解け水となって恵みをもたらします。

ツアーコース

水のストーリーを体感できるおすすめスポットに立ち寄りながら雪の大谷を目指します。どんどん雪が増えていくバスの車窓からの眺めはまるで季節を遡っていく旅のようです。



◎常願寺川
立山連峰を源として、富山湾まで約3000mの高低差をわずか56kmで流れる世界有数の急流河川です

1 いたち川の水辺と清水



《立山の雪解け水を味わおう》
平成の名水百選にも選ばれている湧き水スポット

標高 0m

2 立山カルデラ砂防博物館



《立山の雪について知ろう》
雪や氷河について、地球環境にも関わる興味深い話が盛りだくさん

標高 500m



◎立山の氷河
2012年立山連峰の3つの万年雪が日本初の氷河として認定されました。

4 雪の大谷 (室堂ターミナル)



《迫力の雪壁を体感しよう》
20mにも迫る迫力の雪壁を間近に眺めることができます

標高 2500m

3 弥陀ヶ原雪原



《大雪原を満喫しよう》
天気が良ければ貸切状態の雪原でランチタイム

標高 2000m



◎称名滝
落差日本一(350m)を誇る大瀑布

ツアーガイド



大塚 憲一 Otsuka Kenichi
大学時代に地球科学科で雪氷学を専攻し立山の雪の研究をすることになりました。これがきっかけで毎週のように立山に通うことになり、山の魅力に惹きつけられました。自分の大好きな場所をガイドしたいという思いから、登山ガイドの資格を取得し立山に特化した旅行会社 Travearth(トラバース) を設立しました。

トラバース(社名)に込めた思い



旅「Travel」とそのフィールドとなる地球「earth」この2つの単語から「Travearth」という造語を作り、地球を旅していく様子を表現しています。また、トラバース=「山の斜面を水平に進む」という言葉の意味から、山に登ることだけが目的ではなく山で過ごす時間を楽しもうという思いを込めました。ロゴマークは三方を山に囲まれもう一方が海となっている富山の代表的な地形を表し、その形は水の王国と称される富山の水源である立山連峰の雪の結晶をイメージした六角形となっています。

◆ 気になったことを書いてみよう。



バス車内では、オリジナルスライドで水についてしっかり学習していきます